

地方の鉄道

交通手段が発達しているほど文明社会の最先端を行く国ではなかろうか。長い歴史の中で日本は島国であるため諸外国からの交通は極めて悪く、文化・文明から大きく取り残されてしまった。特に江戸時代においては鎖国政策がとられたこともあり、陸も海も交通手段の発展は後れを取ってしまった。

開国後の明治維新の翌年、政府は官営による鉄道建設がスタート。東京・新橋—横浜間を汽車が走るようになった。と同時に工事が進められていた大阪駅—神戸駅が 1874（明治 7）年に開通。その後、全国各地で鉄道工事の計画は急速に進んでいった。

ここ岡山県でも 1910（明治 43）年に主要幹線から外れたローカル線「西大寺軌道株式会社」が創立している。1962（昭和 37）年に閉業するまでの間、岡山市の中心部よりやや離れた場所にある後楽園（日本 3 大庭園）から西大寺市駅までの約 11 km を結んでいた。この鉄道は日本では珍しい 914mm ゲージ、要するに 3 フィートナローの鉄道であった。写真の列車は 1936（昭和 11）年に川崎車両で製造された流線型気動車。この時期に流行した外観は多くの人の心をつかんだようである。

時代は急速に進み多様な変化を繰り返している。超高速で走る新幹線から航空機の発展。更には陸上の車社会の普及。これら時間の短縮による経済効果は計り知れないものがあるであろう。「便利になった文明」を作ってくれた多くの人達に感謝だ。

撮影 2011 年春

